

鈴木氏が5選

三沢市長選

浅野氏を破る



任期満了に伴う三沢市長選は十二日投票が行われ、現職の鈴木重令氏(62)が、無所属・自民推薦が、新人で元三沢市議会議長の浅野哲朗氏(70)を破り、五選を果たした。鈴木市政の継続か刷新かを問う、前回と同じ顔合わせの一騎打ちとなったが、鈴木氏は市議十六人、市内経済団体などが名を連ねる

広範な後援態勢を築き、四期十年の実績と手堅い行政手腕を強調。有権者から広い支持を得た。鈴木氏は昨年九月、市議会定例会で正式に出馬を表明した。市議二十人中、最大党派「市民クラブ」に公明を加えた十六人が支持に回ったほか、木村守男知事、三村申吾代議士、山崎力参院

議員、地元選出の小比類巻雅明、県議会副議長らがバックを固めた。前回、浅野氏を支持した江渡聡徳元代議士が陣営に加わり、組織力を生かした安定した選挙戦を展開。

「六ヶ所へのITER(国際熱核融合実験炉)誘致と同時に三沢を教育特区に」とのプランを打ち出し、木村知事と一体となった支持を訴えた。

一方の浅野氏は、告示三日前の二日、「無投票は街の衰退につながる。多選に反対し、三沢の閉塞(へいそく)感を打破したい」と急ぎよ、出馬を表明した。市議二人の応援を得て、三三集会を精力的に開くなど、草の根運動を展開。「現在の市政継続には絶対反対。今こそ三沢を新しく生まれ変わらせ、市政を刷新したい」と訴え、地道に現職批判票、浮動票の掘り起こしに努めたが、現職組織の壁を突き崩すことはできなかった。

詳細は朝刊で